

東名厚木病院 広報誌 vol.207

とうめい



特集

放射線治療の今

リハビリ通信

心臓リハビリテーションとは

かけはし

おかだプライマリケアクリニック

教えて!とうめい先生

病院の食事が美味しくなったのはなぜ?



放射線治療の今

放射線治療科 岡部 尚行

2006年 昭和大学医学部卒

日本医学放射線学会認定 放射線科専門医/日本医学放射線学会研修指導者 日本放射線腫瘍学会/

日本医学放射線学会共同認定 放射線治療専門医/日本核医学会認定 PET 核医学認定医

放射線治療をご存知ですか？放射線治療は、がん細胞の増殖を抑えたり死滅させたりすることを目的とした治療法です。手術や薬物療法（抗がん剤）と並んでがん治療の「三本柱」の一つなのですが、世間一般にはそれほど認知されていません。本日は、そんな認知度の低い放射線治療について簡単に説明します。

1. 基本的な仕組み

放射線治療の根本的な原理は、細胞の設計図であるDNAを破壊することにあります。放射線が細胞内のDNAを直接攻撃し切断することを直接作用といいます。それに対して細胞内の水分と放射線が反応して「活性酸素」が発生し、その活性酸素がDNAを攻撃することを間接作用といいます。実際の放射線治療は主に間接作用によってDNAにダメージを与えます。DNAが激しく損傷すると、細胞は分裂して増えることができなくなり、やがて死滅します。ここで重要なのが、「がん細胞は正常細胞よりもダメージの修復能力が低い」という点です。正常細胞も一時的にダメージを受けますが、一定時間が経過すると自己修復します。この修復能力の差を利用して、数回に分けて照射することで、正常組織を守りつつがん細胞だけを効率的にやっつけることができるのです。

2. 長所と短所

放射線治療の最大の長所は切らずに治せるため、臓器の形や機能を温存できることです。例えば喉頭がんでは手術をすれば発声機能は失われますが、放射線治療では残すことができます。一方、短所である副作用は照射された部位に起こる「局所的な症状」が主です。皮膚の炎症や倦怠感、照射部位に近い臓器の炎症（肺炎や腸炎など）がありますが、技術の進歩により以前よりも大幅に軽減されています。高齢者や持病がある方でも体への負担が少なく、通院で治療が可能です。

3. 先端医療

現代の放射線治療は、ターゲットを正確に射抜くための高度なテクノロジーに支えられています。IGRT（画像誘導放射線治療）は、「照射直前に位置をミリ単位で修正する」技術です。呼吸や内臓の動きによる日々の位置のずれを修正できるため、狙った場所に確実に照射することができます。IMRT（強度変調放射線治療）は、「がんの形に合わせて強弱をつける」技術です。がんが複雑な形をしていてもそれに沿って放射線を集中でき、隣り合う正常組織へのダメージを最小限におさえることができます。STI（定位放射線照射）は、「小さな標的にピンポイントで多くの線量を当てる」技術です。短期間で治療が終了し、隣り合う正常組織へのダメージを極めて小さくおさえることができます。東名厚木病院ではエレクトラ社のシナジーという治療機器を導入しており、上記の先端治療を行うことができます。

4. おわりに

放射線治療は「細胞の再生能力の差」という生物学的な弱点を突き「ミリ単位の精密な照射」という工学的な技術でがんを挑む治療法です。単にがんを叩く物理的な攻撃ではなく、生命の仕組みを巧みに利用した、非常に合理的で体への優しさを追求した治療なのです。2人に1人ががんになる時代、東名厚木病院放射線治療科はみなさまのがん治療に貢献できるよう、より一層努力してまいります。

当院では、2017年からがん治療をはじめました。これまで以上に患者さんのニーズに応えられるよう、治療を受ける環境や患者さんのサポート体制を整えています。

外来専門フロアで多職種が連携して患者さんをサポート

化学療法センター



がんは2人に1人が罹患すると言われていた身近な病気です。当院は2020年に神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受け、地域の皆様に質の高いがん医療を提供できるよう努めています。化学療法は、抗がん剤によりがん細胞の増殖を抑えたり死滅させたりする治療法です。

近年は外来での化学療法が増加し、日常生活を送

りながら入院はせずに治療を受けられるようになってきました。外来で治療を受ける患者さんのための専用スペースがあり、安全で安心できる環境作りを大切にしています。

看護師は医師と連携し、安全に化学療法を行うことはもちろん、治療に伴う不安や辛さが少しでも軽くなるよう心に寄り添ったケアを大切にしています。問診時には、体調や副作用について丁寧に確認し、治療中も小さな体調変化を見逃さないよう見守っています。さらに薬剤師と連携してお薬の効果や副作用についてわかりやすく説明し、栄養士と協力して治療中の食事や栄養面のサポートも行っています。これからも、患者さんが安心して通い続けられるあたたかいセンターを目指してまいります。

患者さんやご家族に寄り添う やすらぎの場として

緩和ケア病棟

当院の緩和ケア病棟は、終の棲家としてではなく、症状コントロールを図り精神的なやすらぎの場として緩和ケアを提供しています。

2025年10月には、7床の増床を行い21床になりました。

医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・医療福祉相談員など様々な職種が連携し、患者さんの気がかりなことを一緒に考え穏やかに過ごせるようサポートしています。また、四季折々のイベントを企画し楽しい時間を過ごせるようにしています。

症状緩和が図れば退院できることを念頭に置き、入院当初から患者さんご家族に、今後の治療に望むことや生活上の望み、病状が安定したあとの療養先の希望などの思いを伺います。退院後は地域

と連携をとりながら、在宅や施設での生活に繋がれるように支援しています。

面会は24時間可能で、ご家族の時間に合わせて患者さんと一緒に過ごせる時間を提供しています。是非、東名厚木病院のホームページの「がん治療」をご覧ください。緩和ケア病棟をご利用ください。



クリスマス会では、職員がハンドベルを演奏しました

リハビリテーション科 理学療法士 橋本 健太郎

心不全、心筋梗塞、狭心症、心臓手術後の患者さんは、心臓の働きが低下し、また安静生活を続けたことによって運動能力やからだの調節の働きも低下しています。そのため退院してからすぐには強い活動はできませんし、またどの程度活動しても大丈夫なのかわからないために不安もあります。これらに対して心臓リハビリテーションで適切な運動療法を行うことが役に立ちます。

心臓リハビリテーションは、心臓病の患者さんが体力を回復し自信を取り戻し、快適な家庭生活や社会生活に復帰するとともに、再発や再入院を防止することを目指しておこなう総合的活動プログラムです。内容として、運動療法と学習活動・生活指導・相談（カウンセリング）などを含みます。

(引用：日本心臓リハビリテーション学会)

心臓リハビリテーションの三本柱

①食事療法

- 適切なカロリー摂取により肥満を是正
- 塩分制限により血圧を下げます
- 血糖値やコレステロールを改善します

②運動療法

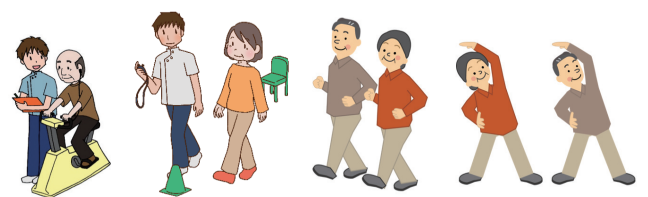
- 体力が向上します
- 動脈硬化危険因子を改善します
- 生活の質（QOL）が改善します
- 再入院を減らし長生きにつながります

③病気について知ること

- ご自身の病気や体の状態について理解できる
- お薬の重要性や効果など理解できます
- 日常生活を安全に快適に送って頂くことができます



心臓リハビリテーションは、医師、理学療法士、看護師などの専門チームの管理下で、安全に運動・生活指導・相談を行う包括的なプログラムです。体力回復、再発・再入院の防止、早期の家庭・社会復帰を目指します。



運動療法は、心臓リハビリテーションの中のひとつ



おかだプライマリケアクリニック

院長 岡田 まゆみ

[略歴]

- 2003年 東海大学医学部医学科卒業
- 2005年 東海大学医学部救命救急医学教室入局、同救命センター勤務。ドクターヘリや災害医療など救命救急医療に従事し、内科疾患、外傷、中毒など幅広い診療を経験。
- 2016年 赤十字国際委員会（ICRC）のミッションに参加。レバノンにてシリア難民への医療援助活動に従事。
- 2017年 国境なき医師団のミッションに参加。イラク、リビアなどで医療援助活動に従事。
帰国後は国内で新型コロナ対応や予防医療活動に取り組む。
- 2025年 おかだプライマリケアクリニック開院



はじめまして。

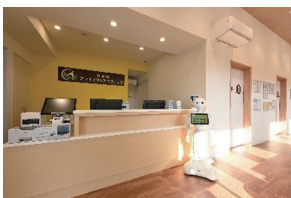
おかだプライマリケアクリニック院長の岡田まゆみです。

当院は、内科・外科・救急科を標榜するクリニックとして開院しました。救急医としての経験をもとに、内科症状から、外傷、めまい、動悸などの急な体調変化まで幅広く対応しています。

また当院は“スマートクリニック”として、予約から会計までの流れを電子化し、電子カルテや画像診断にAIを導入することで、業務の効率化や安全性の向上にも役立てています。

厚木の地域での連携を大切にし、より包括的な医療を提供していきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。



〈DATA〉
おかだプライマリケアクリニック
〒243-0032
厚木市恩名 1-16-43
TEL 046-240-7591



スマートフォンでこちらのQRコードを読み込んでいただくと、医院のホームページを見ることができます。

教えて!

とうめいせんせい



地域のみなさんから届いた質問・疑問に、医療のプロフェッショナルがお答えします。

Q. 病院の食事が美味しくなったのはなぜ？

栄養科では、患者さん一人ひとりの状態を日々モニタリングし、安全な食事を提供できるよう、給食委託会社と連携しながら取り組んでいます。給食管理では2025年10月に給食委託会社を変更となりました。

当院は急性期病院ということもあり、食事は治療の一環であり、リハビリテーションの一環でもあります。しかし、近年の物価高や人件費の高騰により給食業界を取り巻く環境も厳しさを増しています。当院でも「どうすれば食事の質を保ち、さらに高められるか」が大きな課題となり、前業者も含めた複数の給食委託会社を比較・検討した結果、今回の業者変更に至りました。

□食材とメニュー内容を見直し

新しい体制で特に力を入れたのが、食材と献立の見直しです。献立作成の段階から試食会を開催し、食事の種類によって使用する魚や肉について検討を重ね、素材の味、食べやすさなどを比較し、使用食材を決定しました。また、生野菜の使用頻度を増やしたことでメニューの幅が広がり、味が薄くなりがちな茹で野菜やお浸しは調味料を変更、汁物はダシの風味を生かすように調整しました。

□見た目も美味しく

さらに、食器の入れ替えと盛り付けも大きな変化の一つです。食器を新しくしたことで見た目が華やかになり、丁寧に盛り付けるよう心がけています。

□委託会社と試食会や定例会を開催

「おいしさ」を支える裏側には、栄養科と給食委託会社の密な連携があります。行事食や新メニュー導入時には必ず試食会を行い、味や安全性の確認をしています。この試食会は、病院管理栄養士だけでなく給食委託会社の管理栄養士と共に行い、情報共有をしています。また、給食委託会社と定例会を開催し、献立内容の調整を含め安全な食事提供にむけて検討を行っています。

こうした取り組みの結果、患者さんからは「食事の時間が楽しみになった」「温かくておいしい食事に感動した」「以前と比べるとおいしくなりました」といった声が寄せられています。職員からも、嚥下調整食が食事介助しやすくなった、職員食堂も美味しくなったと好評です。

「入院して唯一の楽しみは食事です」と話される患者さんも多いため、今後も行事食や日々の献立を大切に、少しでも食事の時間が楽しく安らぐ時間となるよう、これからも工夫を重ねていきます。

回答者 栄養科 管理栄養士 東村 智巳

とうめいせんせいへの質問を募集!

「教えて!とうめいせんせい」では、医療に関する素朴な疑問・質問を募集しています。どんなことでも構いませんので、お送りください。質問が採用された方には、何かいいことがあるかもしれません。みなさんの質問、お待ちしております。宛先などは、裏表紙をご覧ください。



緩和ケア講演会を開催

3月3日三思会記念ホールにて、地域の医療従事者を対象に緩和ケアチーム主催「緩和ケア講演会」が開催されました。「病院と地域の連携」をテーマに、東名厚木病院緩和ケア内科の飯田先生と厚木循環器内科クリニック・あつじゅん在宅の四津院長にご講演いただきました。

今回の講演会には、84名（院内46名、院外38名）の参加がありました。「地域医療はワンチーム」病院と地域が連携し、患者さんを地域全体で診ていけるよう、これからも取り組んでまいります。



ICLS 研修 50 回目の開催

2月7日東名厚木病院 ICLS 研修が行われ、今回で50回目の開催となりました。2011年から実施され、横浜や県外からも受講に来られます。ICLS コースは、心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目的とした日本救急医学会認定コース、医療従事者であれば誰でも受講可能です。



100 回目の出前講座 小学校へ

1月19日厚木小学校体育館にて、教員と保護者の方を対象に東名厚木病院の医師による出前講座「こんなときどうする？～病院では聞けないお医者さんからの話」が行われました。

整形外科 成尾先生は、3つの外傷について症例を交えて対処法などを紹介しました。

アドバイザーとして参加した乳腺外科の日野先生からは「今回で出前講座は100回を迎えました。地域の中の病院として、みなさんと近い存在になればと思いますので、今後ともよろしく願います。」と最後にご挨拶されました。



がん経験者から聞く 患者力

3月14日がんサロンが開催され、がん経験者である長坂由佳さんを講師としてお招きし、ご講演いただきました。手術などの治療を経験しながらも、ご自身に起きた問題に対して一つひとつ解決策を編み出してきたことが結果的に「患者力」につながったとお話されました。

みなさんのご意見・感想など募集しています

東名厚木病院では地域のみなさんに向けて、よりよい情報提供をするため、読者のみなさんからご意見や感想を募集しています。また、「教えて！とうめい先生」の質問もお待ちしておりますので、住所・氏名・年代とそれぞれの内容をご記入の上、下記宛先までお送りください。

web フォーム

右記 QR コードを読み込んで、
フォームより入力ください。



郵送先

〒243-0034 厚木市船子 232
東名厚木病院 総務課 広報誌担当 まで

東名厚木病院広報誌「とうめい」207号

2026年4月1日発行／社会医療法人社団三思会 東名厚木病院／厚木市船子232／TEL 046-229-1771／発行者 北野 義和／編集責任者 金谷 渉／企画・編集 広報委員会



社会医療法人社団三思会

東名厚木病院

TOMEI ATSUGI HOSPITAL



理念

地域に信頼される病院
患者に愛される病院
誇りと責任を持てる病院

社会医療法人社団三思会

〈保健〉
東名厚木メディカルサテライトクリニック
新横浜メディカルサテライト
Yangon Japan Medical Centre
〈医療〉
東名厚木病院
とうめい厚木クリニック
東名厚木病院 透析センター
愛川クリニック
とうめい綾瀬腎クリニック
さがみ緑風園診療所
とうめい宮の里クリニック
とうめい栄町クリニック
〈介護・福祉〉
介護老人保健施設 さつきの里あつぎ
介護老人保健施設 なでしこの里 リハビリひらつか
複合型施設マザーホーム戸室
多機能型事業所 にじいろ
看護小規模多機能型居宅介護事業 いわしぐも
訪問看護ステーション もみじ
サービス付き高齢者向け住宅 マザーホーム戸室
訪問看護ステーション さつき
東名厚木病院 居宅介護支援センター
厚木市南毛利地域包括支援センター

無料送迎バス時刻表

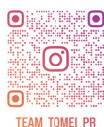


SNSにて最新情報を発信中！



LINE

@034jolmk



Instagram

@team_tomei_pr



facebook

@とうめい企画・広報室



YouTube

@三思会チャンネル